様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成２４年６月８日現在

機関番号：８２６１１
研究種目：基盤研究（C）
研究期間：2009～2011
課題番号：２１５９０６９０

研究課題名（和文）　在日タイ人の健康に関するフィールドワーク：
社会階層の形成と格差の広がりの中で

研究課題名（英文）　Health Research in Thai residents in Japan:
In the stream of social class formation and extending disparity

研究代表者
小堀　栄子（KOBORI EIKO）
独立行政法人 国立精神・神経医療研究センター・精神保健研究所・薬物依存研究部・流動研究員
研究者番号：00422931

研究成果の概要（和文）：在日タイ人コミュニティーは、1990 年代には在日外国人の中で最も非合法滞在者の割合が高かったが、現在では日本人を配偶者に持つ人、主婦、日本語専門学校留学生、事業経営者、元非合法滞在者だが現在は正規の滞在許可を得て子育てをする人など、多様な人々が暮らすコミュニティーへと変化していた。また組織化された自助グループが設立され、日本の人的および社会的資源だけでは対応しきれない社会的役割を果たしていた。そうした中で健康課題も実に多様化していた。かつて多くの感染者が報告された HIV 感染などの感染症のみならず生活習慣病の課題も大きいことが推察されるとともに、実際のケースとしては、乳がん、精神不安、栄養バランスの欠如したライフスタイル、受動喫煙、失業や離婚による生活基盤の不安定化などの課題を抱える人、また、社会的居場所が見つからない呼び寄せの子どもなどの事例がみられた。そうした健康や生活面でのこうした課題は、日本人の配偶者がいるかどうかや、日本人とのかかわりがあるかどうかよりも、本人または配偶者の社会経済的安定、および滞在資格の有無の方が、より明確に関連していると推察された。

研究成果の概要（英文）：In 1990's in Japan, the proportion of non-legal foreign residents among Thai people was the highest in all the other foreign residents. However, such situation had been largely changed in the past 30 years. Now there are many kinds of people who have legal resident status live in the society, such as, housewives, student of Japanese language school, businesspersons, housewives or househusbands who are rearing children though some are non-legal residents, and so on. Thai community is now changed to a community with diversity. An area wide self-help group has also been established. The members have been contributing to both Thai and Japanese society in which Japanese human or social resources can work but only in a limited ways. Health issues necessary to be corresponded for Thai residents are also varied. Not only infectious diseases, such as HIV infected cases having been reported in many numbers among Thai residents in 1990's, but also non-infectious diseases with estimated higher risk compared to Japanese residents. Observed cases were, a case of breast cancer, a case with mental issues, a case with a nutritionally imbalanced diet, a case with passive smoking by smoking of the spouse, cases having been facing unstable life in terms of economy due to unemployment and/or divorce, and lastly, children and youths who have been called from Thailand to Japan in their young ages and living with their mothers who are with their Japanese husband have been facing difficulties to live in the society. Such difficulties in health and life seem to be more clearly related to social and/or economic stability of their own or of their spouse, or related to if they have legal status for residents or not, rather than if they have Japanese spouses or network with Japanese.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
２００９年度	1,400,000	420,000	1,820,000
２０１０年度	1,300,000	390,000	1,690,000
２０１１年度	900,000	270,000	1,170,000
年度	0	0	0
年度	0	0	0
総　計	3,600,000	1,080,000	4,680,000

研究分野：医歯薬学
科研費の分科・細目：社会医学・（公衆衛生学・健康科学）
キーワード：国際保健　社会と健康　在日外国人

１．研究開始当初の背景

かつては日本における非正規（不法）滞在者が多く、その中から多数の HIV 感染が報告されたタイ人であるが、近年では正規滞在者が増えている。急激なHIV感染数の増加が報告されたのは1992年であるが、その多くは超過滞在で性産業に従事するタイ人女性であった[a]。当時は日本経済のバブルがはじけた直後で、タイからの不法残留者数は90年の１万人からピーク時の94年には５万人を超えていた[b]。その後、不況が長引くとその数は徐々に減少し、2007年には７千人となった。その一方で外国人登録者数は現在２万人を超え（2007年）、この10年間で１万人以上増加した[b]。

このように滞在資格による構成比が変化する中、在日タイ人コミュニティーでは社会格差の広がりと思われる現象が見られ、正規滞在資格の有無とは別の要因が人々の健康に大きく関係してきていると考えられる。研究代表者らが2000年前後に行った調査では、超過滞在であることが健康保険の無保険状態をもたらし、病院へのアクセスの阻害要因のひとつであった[c,d]。しかし近年では、NPO主催の在日外国人向け健康相談会への来場者が減り、訪れる来場者も経済的余裕のある人たちである[e,f]など、受診者側の社会・経済基盤に変化が見られる。実際、一部にはレストラン事業の成功など、日本での経済基盤を確立した成功事例も出てきている[f]。その一方で、日本人男性との結婚などで正規滞在資格をもつタイ人女性が夫婦・親子間の人間関係などにおいて疎外感を深め、精神的健康に支障が出たり、子供の保健医療や教育に悪影響が出たりする事例も聞かれる[f]。近年の在日タイ人の健康を左右する要因はかつての滞在資格の有無から、日本社会と密接に関連した社会的要因へと変化してきていると思われる。そしてそこには在日タイ人コミュニティーにおける社会階層の形成と格差の広がりが見られる。

[参考文献]
[a]厚生労働省エイズ発生動向調査 2007.
[b]法務省入国管理局統計.
(http://www.immi-moj.go.jp/toukei/index.html)
[c] 小堀栄子、内野ナンティヤー、木原雅子、木原正博. 滞日タイ人のSTDおよびHIV/AIDS関連知識、行動及び予防・支援対策の開発に関する研究. 平成12年度厚生労働科学研究費報告書. HIV 感染症の動向と予防モデルの開発・普及に関する社会疫学的研究. 2001年3月.
[d] 小堀栄子、内野ナンティヤー、木原雅子、木原正博. 滞日タイ人のSTDおよびHIV/AIDS関連知識、行動及び予防・支援対策の開発に関する研究(Thai Project):コミュニティーレベルにおける HIV/AIDS 予防介入実施に向けた滞日タイ人コミュニティー調査.平成 13 年度厚生労働科学研究費報告書. HIV 感染症の動向と予防モデルの開発・普及に関する社会疫学的研究. 2002年3月.
[e] 鈴木良美他. 埼玉の滞日外国人健康相談活動における10年間の参加者数の推移と影響要因. 第23回に本国際保健医療学会学術大会. 東京. 2008年10月.
[f]在日外国人・タイ人支援民間団体関係者らとのパーソナル・コミュニケーション.

２．研究の目的

- 在日タイ人とその家族の日常生活と健康
- 在日タイ人とその家族を取り巻く社会環境及び人間関係
- それら社会環境及び人間関係に対する在日タイ人の認識と行動の現状と変化
- 在日タイ人とその家族が抱える健康リスクとそれに関連する社会的要因
- それら健康リスク・社会的要因と、コミュニティーの社会階層、社会格差との関連性に関する考察

３．研究の方法

情報収集はフィールドワークの手法[a]を用いて、インタビュー、観察、既存資料の収集・分析などを行った。

(1) インタビュー

本研究の実施に当たっては研究協力者として 2 人の在日タイ人から協力を得た。2 人はいずれも日本語が堪能で在日期間が 10 年以上に及ぶとともに、在日タイ人の支援のためのボランティア活動に積極的に参加するなど、在日タイ人の事情に詳しい。研究協力者とは事前に打ち合わせを行って、研究目的、インタビューガイド、インタビューの進め方、対象者への倫理的配慮などについて十分な理解を得た。

対象者は、関東圏在住の在日タイ人とその家族で、研究協力者らのネットワークを介してアクセスした。

インタビュー対象者は合目的的サンプリング(Purposive sampling)[b]で候補者を絞り、研究協力者らが考える、在日タイ人の典型例、特殊例など、多様な対象者に事前に連絡をとって研究の概略を伝え、了承が得られた場合、日時及び場所を決め、インタビューを行った。インタビューの場所は対象者の都合を優先し、自宅、公民館、飲食店など、多岐にわたった。

インタビューは、研究協力者と研究代表者の 2 人で行い、主として研究協力者が進め、研究代表者は必要に応じて会話に参加し、的確かつ詳細な情報収取に努めた。言語は対象者の母国語であるタイ語を用いた。インタビューを始める前に、研究目的・意義・個人情報の保護、参加拒否の権利を伝え、口頭で了解が得られた場合のみインタビューを行った。インタビューガイドに沿って自然な会話を行うようにすすめ、来日の経緯、来日の前と後の生活状況、現在の生活状況、仕事に関する心配事、健康について、日常生活での付き合いや活動の範囲、将来について尋ねた。インタビューは回答者の同意を得て録音した。

データ解析では、録音内容は、インタビューを行った研究協力者がすべてタイ語で書き起こし、同時にそれを日本語に翻訳した。この日本語訳は、タイ語が堪能な日本人（研究協力者）がタイ語の書き起こしを見ながら翻訳の正確さをチェックし、また日本語として自然な文章になおした。日本語になった会話内容は、研究代表者と研究分担者で主題分析の手法で分析した。また、観察、記録資料などの異なる手法で収集したデータを付き合わせ、解釈の正確性・妥当性を高め、包括的な解釈を試みた。

(2) 在日タイ人支援グループの活動観察

その他の情報収集法として、在日タイ人支援グループの活動や会合への参加を通して観察を行った。また、同支援グループメンバーを対象に課題検討会を実施し、その課題に関する在日タイ人の情報を幅広く収集した。

(3) 既存資料の収集・分析

さらに、在日外国人の健康に関する既存資料を用い、インタビューや観察とは異なる視点から対象者の健康課題の把握を試みた。

・文献調査

1 つ目は文献調査で、在日外国人の健康に関する文献を、医学中央雑誌及び PubMed を用いて検索し、日本における過去の研究状況を調べた。医中誌及び PubMed ではそれぞれ下記条件で文献検索を行い、次に、日本における新来外国人労働者を対象とした保健医療・福祉に関する研究に限定してを選択した。対象期間は、医中誌では 1983 年以降、PubMed では 1980 年以降とした。「医中誌」：検索式；(外国人/TH or 外国人/AL) AND (PT=原著論文,総説 SB=看護,歯学).論文種類;原著論文/総説(解説/会議録などを除く). 分類；看護/歯学.「PubMed」：検索式；("Emigrants and Immigrants"[Mesh] OR "Transients and Migrants"[Mesh]) AND "Japan"[Mesh] . Species；Human. 言語；日本語/英語. 論文種類；すべて. 分類；すべて.

・統計資料調査

2 つ目は統計データからみた在日外国人の健康状況に関する調査で、在日外国人のデータが収集・公表されている人口動態統計、結核及びエイズの統計データを用い、既存の統計データから在日外国人の健康に関するデータを収集・要約し、その現状を概観して考察した。

[参考文献]

[a]佐藤郁也. フィールドワーク：書を持って街へ出よう. 新曜社. 2001 年.

[b]キャサリン・ポープら. 大滝純司監訳. 質的研究実践ガイド. 医学書院. 2001 年.

４．研究成果

(1) インタビュー

これまでにインタビューを行った女性 12 人、男性 3 人のうち、女性 1 人を除く 14 人が既婚者であった。女性も男性も、配偶者はタイ人である場合も日本人である場合もあった。年齢は 30 代から 50 代で、在日期間は 1 年数カ月から 20 年以上で、半数以上が 10 年を超えていた。健康課題としては、乳がん、精神不安、栄養バランスの欠如したライフスタイル、受動喫煙、失業や離婚による生活基盤の不安定化、社会的居場所が見つからない呼び寄せの子どもの事例などが見られた。また、日本での生活の安定度を家族の人間関係及び経済的基盤の観点からみると、男性も女性も、日本人との結婚が 1 つの大きな生活安定要因であると考えられた。しかし日本人との結婚からその後の生活不安定につながり、出産・子育て上の困難を抱えるケースもあった。一方、ビジネスの成功によって生活安定を獲得していたケースもあった。安定度が低

い場合、ボランティア支援団体の支援によって生活保護の受給、健康保険の取得、そして在留資格の取得手続きなどに結びついているケースがあった。

(2) 在日タイ人支援グループの活動観察
2011年3月の東日本大震災の発生を受け、誤った情報で在日タイ人のコミュニティーの一部に混乱が生じた。母国語(タイ語)で得られる災害関連情報が限られる中、タイ本国の親族からの不確実な情報が混乱の原因だった。こうした中、在日タイ人支援グループの今年度の活動はこうした緊急事態への対処が主流となった。タイ大使館からの協力要請を受け、被災地及びその周辺在住の在日タイ人に関する情報収集、支援物資の配布、および地震、とりわけ放射能に関する情報提供と不安に関する相談受付・精神的支援などにあたり、日本の人的および社会的資源だけでは対応しきれない重要な社会的役割を担っていた。

課題検討会では、在日タイ人コミュニティーが抱える喫緊の課題として、在日タイ人である親が本国タイから呼び寄せられた前夫との間の子どもが、来日しても日本社会にうまく溶け込むことができていないというテーマが取り上げられた。その現状に関する情報とともに、それに関する在日タイ人当事者の認識について情報を得た。

(3) 既存資料の収集・分析
・文献調査

医中誌及びPubMedで抽出された314件、79件(いずれも2010.6.7現在)から、日本の新来外国人労働者を対象とし、保健医療・福祉問題をテーマにした文献に絞ったところ、医中誌から215件、PubMedから14件（うち13件が日本語文献、1件が医中誌で抽出された1件と重複）が最終的に該当した。1991－1996年の文献数はこのうちの半数以上を占めていた。その後2000年代半ばから再び増え、2005－2010現在までの文献数は全体の1/4を占めた。いずれの時期も保健医療・福祉・支援に関するテーマが主流だが、1993－1994年に特徴的なのは、結核及びHIVに関するテーマの文献が複数見られる点で、とくにHIVに関してはこの時期だけの特徴であった。取り上げられるテーマはその時々に新来外国人労働者がおかれた日本での社会背景を反映していると思われる。社会・経済的基盤が日本人よりも脆弱と考えられる新来外国人労働者の健康は、日本の社会背景を十分考慮した枠組みの中で明らかにされることが重要であることが示唆された。

・統計資料調査

結核患者に占める外国人の割合は、（国籍が明らかなケースに限れば、2.1%（1998年）から4.0%（2009年）へと増加しているものの）国籍不明のケースを含めた外国人全体では、16.2%（1998年）から5.6%（2009年）へと減少傾向にある。またHIV感染者に占める外国人の割合は、ピーク時の71.9%（1992年）から7.3%（2010年）へ、エイズ患者では36.8%（1991年）から7.0%（2010年）へと、大幅な減少傾向にある。しかし、結核患者やHIV感染者・エイズ患者に占める外国人の割合は、日本の総人口に占める外国人の割合（1.67%、2010年）と比較すれば、依然として高い。また、悪性新生物、心疾患、脳血管疾患、肺炎、不慮の事故など、日本での主要死因における年齢調整死亡率は、男女とも日本人より外国人の方が高く、その傾向は総数における年齢調整死亡率でも同様である（男性：日本人 593.2、外国人 641.5；女性：日本人298.6、外国人378.3、人口10万対、いずれも2006年)。さらに、乳児死亡および死産の割合は外国人の方が日本人より高く（乳児死亡2.6倍、死産3.7倍、いずれも2006年)、その差は1980年ごろから拡大傾向にある。在日外国人の患者・感染者の割合は、結核・エイズといった感染症、および代表的な生活習慣病において、いずれも日本人より高い。また、乳児死亡および死産の割合は日本人の2倍から3倍に上り、1980年ごろから日本人との差が広がる傾向が顕著になっている。その背景には、80年代に主に労働目的で来日した新来外国人の増加により、それまでの韓国・朝鮮国籍者を中心とした在日外国人の人口構成が大きく変化したことが関係していると推察されるが、詳細は不明である。

以上の結果を考え合わせると、今回調査した在日タイ人の健康課題や生活困窮の課題は、日本人の配偶者がいるかどうかや、日本人とのかかわりがあるかどうかよりも、本人または配偶者が社会経済的に安定しているかどうか、あるいは本人または家族が正規の滞在資格を持っているかどうかによる影響の方が、より明確に関連していると推察された。

（本研究結果は今後論文として発表予定）

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　０件）

〔学会発表〕（計　２件）

①小堀栄子、前田祐子、宮島朝子．日本における新来外国人労働者の健康に関する文献研究．日本公衆衛生学会．第69回日本公衆衛生学会総会（東京）2010年10月29日．

②小堀栄子、前田祐子．新来在日タイ人の生活実態と健康．日本公衆衛生学会．第70回日本公衆衛生学会総会（秋田）2011 年 10 月 20 日．

〔図書〕（計　０件）

〔産業財産権〕
○出願状況（計　０件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計　０件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕なし

６．研究組織
(1)研究代表者
小堀栄子（KOBORI EIKO）
独立行政法人　国立精神・神経医療研究センター・精神保健研究所・薬物依存研究部・流動研究員
研究者番号：００４２２９３１
(2)研究分担者
前田祐子（MAEDA YUKO）
京都大学・医学研究科・講師
研究者番号：３０３７８７４９
宮島朝子（MIYAJIMA ASAKO）
京都大学・医学研究科・教授
研究者番号：６０１１５９４６

(3)連携研究者
0